

誰もが働きやすい労働環境について

創政クラブ

片野 晶子



問 ハラスメント撲滅について市民への啓発として「誰もが働きやすい」パワハラのない高山市をアピールすべきと考える。まず市がその規範となる取組として、プライバシー保護に配慮した形で「ハラスメントのアンケート」を実施してはどうか。

答 市職員のハラスメントの実態について、潜在的な事案を含め把握することは必要であると認識している。実態把握の方法としてアンケート調査等を実施し、現状分析を行うとともに予防策や対応策を検討するなど、職場の環境改善に取り組んでいきたいと考えている。



市発注工事の遅延は強風理由で無審査OK

創政クラブ

倉田 博之

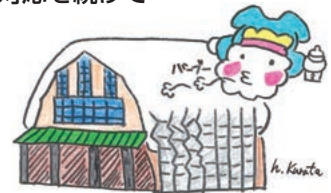


問 「荘川さくら学園」工期延長の理由は「強風等による足場の損傷」とあった。国県発注工事なら最寄り気象台の証明書が必要。独自で気象台から取り寄せた証明書では、「無風・微風」ばかりで強風の証明はできなかった。今後いかなる市の発注工事も、理由が強風ならば市は工期延長を認めなければならない。市のチェック体制は緩すぎないか。

答 市に証明書の提出要件はない。損傷前の足場は問題なかったのも、強風等で損傷しと認めた。

問 これからもこの対応を続けていくのか。

答 損傷前の足場は問題なかったのも、強風等で損傷したと認めた。



気象台の微風データは市の強風

子育て支援対策について

日本共産党高山市議団

坂下 美千代



問 県教育委員会は、来年度から県立高校、特別支援学校の生徒が学校で使用するタブレット端末の貸与はせず、個人負担を求める方針を突然打ち出した。県補助金の高等学校就学準備等支援金の増額を、県に対して要望できないか。県の補助がないのであれば、市独自の支援を検討できないか。

答 県ではタブレットの件のみではなく、子育てや文化振興に係る部分も含め、かなり補助金等をカットしてきている。緊急に市長会に提言を上げ、知事に向けて見直すような要望書も出している。県の施策でカットした部分を、市が全て支援するのは現実的ではないと考える。しっかり県へ見直しを要望していく。

高齢者等の公共交通利用支援について

日本共産党高山市議団

上嶋 希代子



問 高齢者等でバスを利用しないと出かけられない人から、バスの本数が少ないことや、土日に運行が少ないため利用できないとの声を聞くが、運行を改善できないか。また、運転免許自主返納者に対する支援を強化できないか。

答 持続可能な公共交通とするため、利用実態調査などによる検証を行い、利便性向上に取り組んでいる。土日運行については、深刻な運転手不足の現状や利用見込み等を検討した結果、拡大は予定していない。運転免許証を自主返納された方には、のらマイカーなどが1年間乗り放題となる「おでかけパスポート」を1回限り無料で発行しているが、年数延長の予定はない。